

山梨県南アルプス市
市内遺跡詳細分布調査報告書

2006. 3

南アルプス市教育委員会

例　　言

1. 本報告書は、山梨県南アルプス市の芦安・白根地区を対象とした遺跡詳細分布調査の報告書である。
2. 分布調査は、平成 15～17 年度までの 3 年間、山梨県文化財関係県費補助金を受け、南アルプス市教育委員会が実施した。
3. 調査期間は以下のとおりである。

平成 15 年度	平成 15 年 11 月 26 日～平成 16 年 1 月 31 日
平成 16 年度	平成 16 年 11 月 19 日～平成 17 年 1 月 31 日
平成 17 年度	平成 17 年 7 月 9 日～平成 18 年 1 月 31 日

4. 遺跡範囲は、遺物の散布状況、地形、伝承、旧測量図および発掘調査結果等を考慮し決定した。なお、堤防址については分布調査結果のほか、山梨県教育委員会発行の『山梨県堤防・河岸遺跡分布調査報告書』、明治時代の地積図および明治 21 年に測量された地形図を基礎資料とし、決定した。
5. 本報告の執筆は、第 4 章調査結果 1. 調査結果「善応寺裏山経塚について、善応寺周辺の遺構」を櫛原功一、第 4 章調査結果 1. 調査結果「ロタコ」を田中大輔、それ以外を斎藤秀樹が担当した。
6. 写真撮影は遺跡ごとに割り当てられた調査担当者および斎藤が行った。
7. 整理作業には飯室めぐみ、加藤由利子、神田久美子、久保田幸恵、小林素子、桜井理恵、廣瀬源春、古郡 明、穂坂美佐子、山路宏美、山本 愛が参加した。
8. 分布調査および本報告書に係わる図版、写真、遺物等の調査資料は南アルプス市教育委員会が保管している。
9. 調査から本書の作成に至るまで、次の諸氏、諸機関からご指導ご協力を賜った。記して心より感謝の意としたい。(敬称略)
名取栄一、山本政一、帝京大学山梨文化財研究所、山梨県教育委員会学術文化財課、山梨県埋蔵文化財センター

目 次

例 言

目 次

第1章 調査に至る経緯と経過——	1
第2章 地理環境——	1
1. 市内の地形——	1
2. 御勅使川の流路変遷——	2
第3章 調査方法——	5
第4章 調査結果——	6
1. 調査結果——	6
2. 遺跡の立地と分布——	11
第5章 総括——	13

第1章 調査に至る経緯と経過

平成15年4月1日、芦安村、八田村、白根町、若草町、櫛形町、甲西町の岐西地域4町2村が合併し、南アルプス市が誕生した。合併以前、芦安村と白根町では遺跡の分布調査が実施されておらず、周知の埋蔵文化財包蔵地図いわゆる遺跡地図が十分に整備されていない状況であった。合併協議の中で、市内での均一な行政サービス実施のため、調査精度がほぼ同一な遺跡地図の整備が重要議題の一つとなり、協議の結論として、芦安・白根両地域を対象とした分布調査の実施を新市への引き継ぎ事項とした。

南アルプス市教育委員会では合併協議結果を踏まえ、芦安・白根地区における遺跡詳細分布調査を平成15年度から平成17年度までの3カ年計画で実施することを決定した。なお、分布調査は国、県の補助金を得て実施した。

第2章 地理環境

1. 市内の地形

南アルプス市は、甲府盆地の西部に位置し、総面積264.06 km²、山梨県の面積の約5.9%を占めている。古くから西郡（にしごおり）と呼ばれてきた南アルプス市域には、地域の人々が自分達の住む土地を分類した言葉「山方」「根方」「原方」「田方」がある。「山方」は市西部の山岳地域、「根方」は巨摩山地東麓の台地、高位段丘と扇状地扇頂部、「原方」は扇状地扇央部から扇端部、「田方」は市東側の釜無川氾濫原を指す。この言葉は地形区分のみならず、その土地の動植物やその環境に合わせた生業形態をも含めた概念であり、生態学的な環境をも表現している。この4つの言葉を手がかりに、南アルプス市域の地理・歴史環境を概観する。

山方

「山方」は市西部に広がる山岳部を差す名称である。市の西端には市名の元となった「南アルプス」いわゆる赤石山脈が南北に走り、日本第2位の高峰である北岳（3,193m）をはじめ、間ノ岳（3,189m）、仙丈ヶ岳（3,033m）、鳳凰三山など3,000m級の山々が嶺を連ねている。日本を南北に貫く糸魚川一静岡構造線を問にはさんで、その東側には櫛形山、丸山など標高2,000m級の山々がそびえる巨摩山地が展開する。こうした「山方」の森林面積は193.4haと広大で、市面積の約73%を占める。「山方」では主たる生業として山の資源を活かした狩猟や焼き畑、炭焼きなどが伝統的に行われてきた。

根方

「根方」は山岳部の東麓に位置する台地や高位段丘地域とその崖下に展開する扇状地扇頂部を指す名称である。櫛形地区では「根方」を細分し、台地・段丘上を「坂上」、その下の地域を「坂下」と呼んでいる。櫛形山東麓には南北4km、東西2.5km、面積7km²を誇る市内最大の台地、市之瀬台地が形成されている。巨摩山地の東側には大嵐地区や篠山地区、飯平地区で高位段丘が見られる。「根方」は、山、山麓、扇状地扇頂部の3つの異なる環境の結節点に位置することから、狩猟や炭焼き、山地から流れ込む河川の水を利用した水田耕作、畑作とそれぞれの環境に適応した生業が行われてきた。

原方

「原方」は、山岳部を水源とし東へ流下する御勅使川や大和川、深沢川、漆川、市之瀬川、秋山川など諸河川が造り出す複合扇状地の扇央から扇端部を意味する。特にドノコヤ崎を水源とし市北端を東流

している御勅使川は、巨摩山地の山々を削りながら甲府盆地に大量の砂礫を供給し、総面積 40 km²に及ぶ広大な御勅使川扇状地を造りだしている。一方高尾山を水源とする大和川と深沢川が合流してできた深沢川は、その名のとおり急流河川で、古来より山崩れと大洪水を引き起こし、御勅使川扇状地の南端部に覆い被さるように深沢川扇状地を形成している。扇状地上は細かな起伏があり、旧流路に沿って微高地が分布している。この他、市南部の巨摩山地東麓には深沢川や漆川、坪川、秋山川などの諸河川によって造りだされた扇状地が重なりあい、複合扇状地が形成されている。

扇状地は砂礫が主体のため地下水位が低く、水の乏しい非常に乾燥した土地となる。御勅使川扇状地扇央部の上八田・西野・在家塚・上今井・桃園・吉田・小笠原集落は「原七郷」と呼ばれ、「お月夜でも焼ける」と言われるほど特に水の獲得に苦労した地域である。そのため生業は大根、人参、夏豆、牛蒡、葱苗、さわしがき、塩の7種が主体で、この産物を行商で売る生活様式が江戸時代の特徴となっていた。現在は水はけのよい土地を利用して、葡萄、桃、サクランボなど果樹栽培が盛んである。

田方

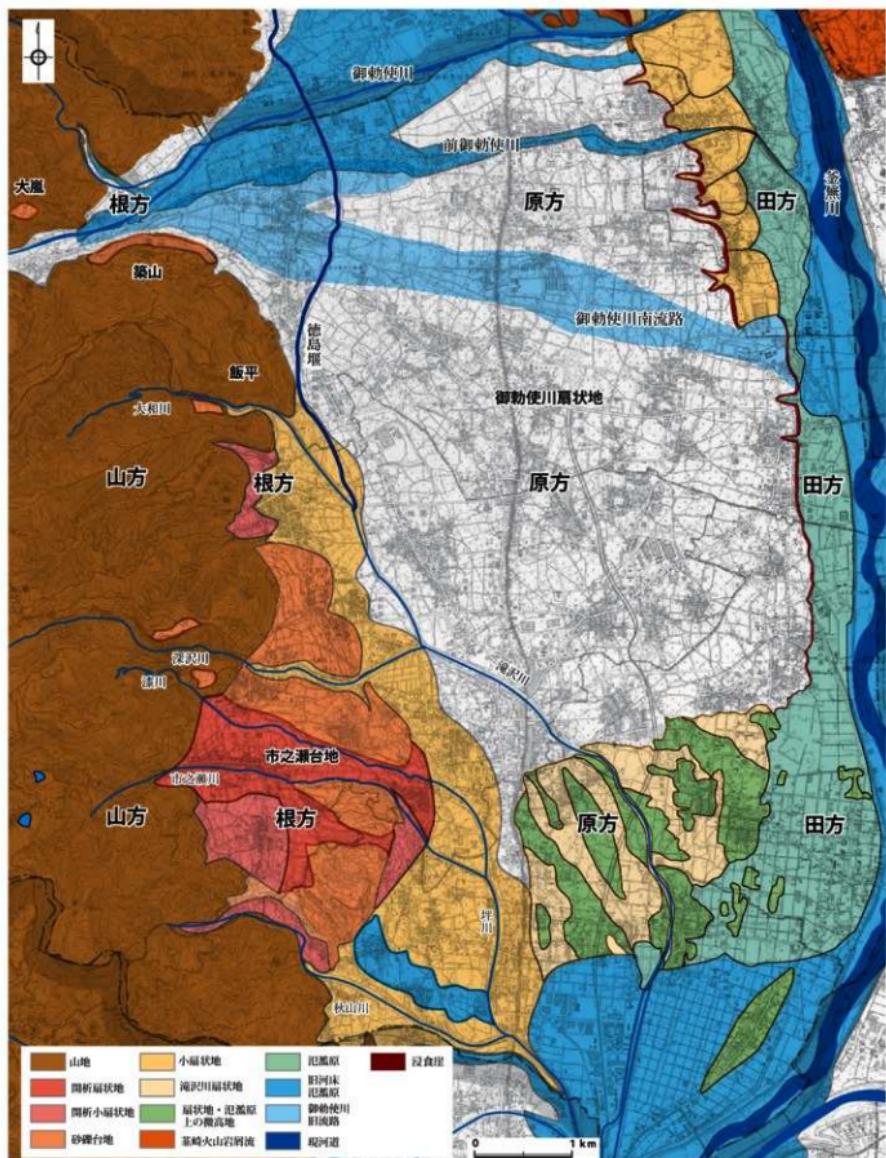
「田方」は、市東側を南流する釜無川が御勅使川扇状地を浸食して形成した氾濫原を意味する。御勅使川・深沢川扇状地と氾濫原の境には、比高差2~20m前後の浸食崖が形成され、八田地区野牛島から若草地区鏡中条まで崖が南北に走っている。崖下は扇頂部で地下に潜り込んだ御勅使川伏流水が湧出する地点で、浸食崖にそって湧水地が弧状に点在している。湧水地より東側の氾濫原は水の豊富な地帯となり、古くから水田耕作が営まれ、市内の米どころとなっている。

2. 御勅使川の流路変遷

日本三大扇状地にも数えられる扇状地を造りだした御勅使川は、現在でこそ河道が固定されているが、過去何度も流路変更を繰り返してきた。今回分布調査の対象地域である白根地区では、御勅使川の流路変遷が遺跡の分布と密接に関係している。このため、御勅使川の流路変遷について時代を遡りながら見ていきたい。

現在の県道甲斐芦安線が明治時代まで御勅使川の流路だったことは広く知られている。地元では「前御勅使川」と呼ばれ、高度経済成長期の開発が進むまでは、県道沿いに旧堤防が残り、また家屋も少なく河川の面影を残していた。全国的にも著名な武田信玄の治水事業とは、戦国時代に本流であった前御勅使川の洪水から甲府盆地を守るために、現在の御勅使川流路を開削し釜無川との合流地点を高岩付近に変え、さらに竜王に信玄堤を築いた一連のと伝えられている。武田信玄治水事業の真偽はともかく、遺跡の分布状況や庄名の研究等から戦国時代に前御勅使川が流れていることは確実視されている。前御勅使川の流路上には、運搬された砂礫によって浸食崖が埋め立てられ、下流に小扇状地が形成されており、一定期間、御勅使川の本流であったことが窺える。

前御勅使川以前の流路については、『白根町誌』でそのルートが図示されている。有野から西野を経由し現在の白根高校付近に至るルートである。近年の中部横断自動車道の試掘調査や日々遺跡の調査、微地形からの研究等によって科学的な証拠が提示され、具体的な流路の姿が見えるようになった。それらの研究成果によれば、この流路は平安時代から中世前半に本流があったとされ、御勅使川南流路と名付けられている。さらに御勅使川扇状地の流路変遷を研究した今福利恵氏によって、遺跡の分布状況から今井流路、さらに南に十日市場流路を推定されているが、二つの流路の変遷を確定するにはさらなる地質・考古資料の蓄積が必要であろう。



第1図 南アルプス市地形分類図 (1/50,000)

引用・参考文献

- 今福利恵 2004a 「遺跡の立地」『百々遺跡2・4』 山梨県教育委員会
- 2004b 「御勤使川扇状地上の遺跡」「百々遺跡3・5の集落変遷について」「馬相野空閑地」
『百々遺跡3・5』 山梨県教育委員会
- 2004c 「御勤使川流路の変遷と地域の様相」「信玄堤の再評価」資料集 「信玄堤の再評価」
実行委員会
- 河西 学 2000 「石橋北屋敷遺跡周辺の地形環境」『石橋北屋敷遺跡』 山梨県埋蔵文化財センター
- 白根町誌編纂委員会 1969 『白根町誌』 白根町
- 高木勇夫・中山正民 1983 「甲府盆地西部地域の地形」『日本大学文理学部自然科学研究紀要』
第18号
- 1987 「微地形分析よりみた甲府盆地における扇状地の形成過程」『東北地理』
39
- 畠 大介 1997 「御勤使川の流路変更に関する一視点」『帝京大学山梨文化財研究所報』第31号
- 保坂康夫 1999 「御勤使川扇状地の古地形と遺跡立地—中部横断道の試掘調査の成果から—」『研究
紀要』15 山梨県立考古博物館・山梨県埋蔵文化財センター
- 2002a 「御勤使川流路変遷にかかる最近の考古学的知見」『甲斐路』100
- 2002b 「古代・中世の扇状地耕地化過程と堤防」『帝京大学山梨文化財研究所報』43
- 山梨県 1984 『国土調査 土地分類基本調査 甲府』
- 山梨県 1985 『国土調査 土地分類基本調査 御岳昇仙峡』
- 山梨県 1986 『国土調査 土地分類基本調査 莼崎・市野瀬』
- 山梨県 1993 『国土調査 土地分類基本調査 大河原・鍬沢』
- 雄山閣 1968 『甲斐国志』

第3章 調査方法

今回の分布調査は、南アルプス市内の中で遺跡分布調査が実施されていない白根地区（旧白根町）および芦安地区（旧芦安村）を対象として調査を実施した。現地調査は遺物の表面採集および周辺地形の観察から遺跡範囲を決定し、各種地図へ記録、現地の写真撮影も行った。

範囲が広範囲におよぶため、調査期間を平成15年度から平成17年度までの3カ年とし、大きく3地区に分けて調査を行った。各年度の調査対象地域および調査内容、調査員は下記のとおりである。

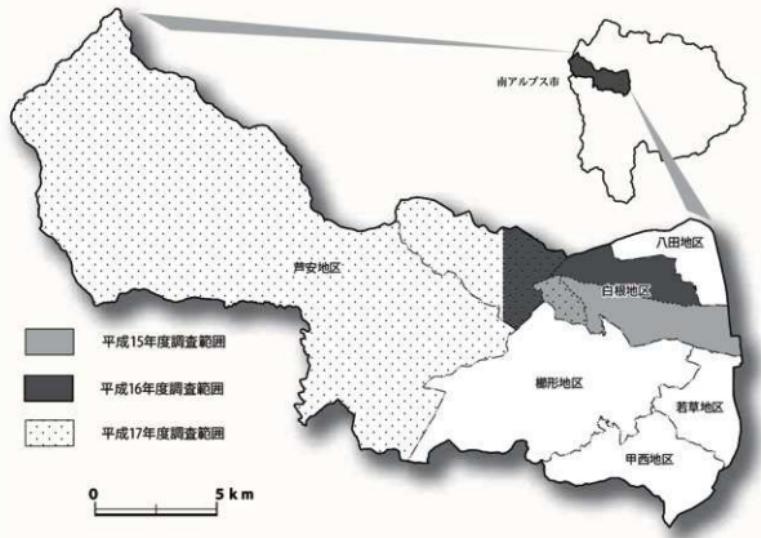
平成15年度

白根地区南部を17の調査区に分け、それぞれ調査員を割り当て、踏査による調査を行った。

調査員：今村直樹、間間俊明、大島正之、大山祐喜、河西 学、櫛原功一、小坂隆司、坂口広太、佐々木 満、長谷川 誠、畠 大介、平野 修、皆川 洋、宮澤公雄、村松佳幸、望月秀和、渡邊泰彦
平成16年度

白根地区北部を17の調査区に分け、それぞれ調査員を割り当て、踏査による調査を行った。

調査員：今村直樹、間間俊明、大島正之、河西 学、櫛原功一、坂口広太、桜木雅紀、佐々木 満、高須秀樹、長谷川 誠、畠 大介、平野 修、皆川 洋、宮澤公雄、村松佳幸、望月秀和、渡邊泰彦



第2図 年度別分布調査対象地域図 (1/20万)

平成 17 年度

当初、芦安地区全域と白根地区的山岳部を対象としたが、熊の出没や調査期間が狩猟期間と重なるため調査員の安全を考慮し、①芦安集落その周辺地域、②白根地区的山岳地域を対象とした。また、御勅使川は古くから暴れ川として有名であり、明治時代に入ると全国に先駆けて西欧の治水技術が導入された地域で、御勅使川およびその支流には明治、大正期に多くの砂防堰堤が建設された。日本で初めて本格的にコンクリートを使用した芦安堰堤（大正 15 年竣工、国登録有形文化財）など歴史的な堰堤も現存している。以上の点から、堰堤も南アルプス市域の歴史にとって重要な遺構と判断し、堰堤の分布と現状を確認する調査も併せて実施した。

調査員：今村直樹、閑間俊明、櫛原功一、高須秀樹、畠 大介、平野 修、村松佳幸、望月秀和

第4章 調査結果

1. 調査結果

今回の調査の結果、白根地区で新たに 3 遺跡（ロタコ、堤防址を除く）が発見され、他 3 遺跡で範囲が大きく変更された。遺跡の範囲は今回の分布調査の他、合併後実施された試掘調査、本格調査結果を基礎資料として総合的に判断し決定した。今回遺跡とした中には、通常の散布地の他に前御勅使川・釜無川に伴う堤防遺跡や戦争遺跡であるロタコ（御勅使河原飛行場跡）など、南アルプス市にとって特徴的かつ歴史的に重要な遺構も遺跡とした。

発見された遺跡

SN-10 神ノ木遺跡

在家塚神ノ木に位置する。古瀬戸鉢皿の中世陶磁器および近世陶磁器が採取された。中世から近世の遺跡と考えられる。

SN-11 宮西遺跡

西野宮西に位置する。土師質土器片が採取された。平安時代および中世の遺跡と考えられる。

SN-12 西原遺跡

上今諭訪西原に位置する。近世の陶磁器とともに内耳土器片が採取された。中世まで遡る遺跡と考えられる。

範囲変更された遺跡

SN-3 百々・上八田遺跡

今回の調査によって、遺跡の西端であった中部横断自動車道より西側の地域でも古代の土器片が採取されたため、遺跡の範囲を西側に拡大した。一方で 52 号線西側の百々集落周辺では中世以前の遺物は全く採取されなかった。しかし百々集落の氏神諭訪神社には、鎌倉期の嘉元 3 年（1305）、藤原吉宗の手によって作られた日本で 5 番目に古い獅子頭が納められており、鎌倉時代に百々集落が現在の地に成立していた可能性がある。遺物が採取されないのは、西側へ行くほど御勅使川扇状地扇頂部に近づくため砂礫の堆積が厚くなり、表面からの遺物採取が難しくなる点が挙げられる。よって現時点ではあくまで遺物が採取された国道よりやや東側までの地域を百々・上八田遺跡の西限とした。

SN-4 下今諭訪遺跡

下今諭訪遺跡は、旧白根町の埋蔵文化財保蔵地カードによれば、昭和 47 年の調査時に地下 90cm から弥生時代の壺が出土し、また地表では土師器片が採取されていた遺跡である。今回の調査によって遺

跡東側の地域からも繩文時代中期および古代～近世の遺物が採取され、遺跡がさらに東側へ広がっていることを確認した。

SN-8 善応寺遺跡

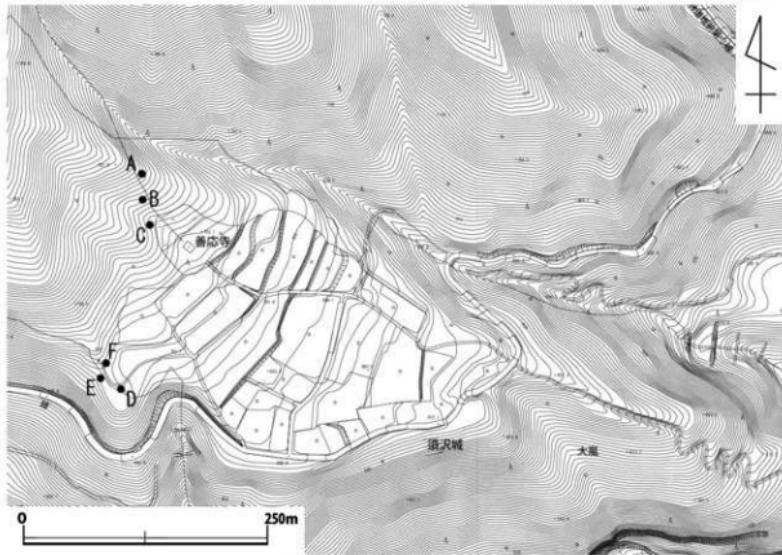
今回の調査によって善応寺遺跡は北西および南東へ広がることがわかり、また井戸と思われる石組みや水場、寺院に伴うと推測される配石による溝、石段、石垣が発見された。調査結果については山岳地域調査担当者の一人である櫛原功一氏の調査報告を掲載する。

善応寺裏山経塚について

『白根町誌』(1969)には次のようにある。

「善応寺裏山の経塚は、現在ではマウンドをほとんどとどめておらず、僅かに塚らしい跡が半分程のこされているのみであるが、これは大正2年に山道開さぐの折に塚を半分けずり取り、その際に経塚遺品が発見されたもので、雄山閣の考古学講座「経塚石田茂作氏」によると、鉄製磬残欠1、土師小皿2、土製経筒1、短刀1、鉄鏃2となっており、時代は平安時代となっている。(略)経塚のある立地が西南に向かって広がっている(略)。また「大嵐善応寺裏山経筒の出土したところ」として写真1枚が掲載されている。

『経塚—関東とその周辺』(東京国立博物館 1988)「善応寺経塚」では、「発見届によると、陶製の経筒は、地表下一尺五寸のところより下に土壤を穿ち、その中央に据えられ、経筒の天と地にあたる所にはそれぞれ十文字に交差させた二本の刀身を置き、経筒の周囲には木炭が詰められ、さらに河原石が積まれていたという。なお鐵鏃と皿については一九一三年以前に、この遺跡の付近において表面採集されたもので、経塚との関連は明かではない」と記されている。磬についても発見届にはないことから、周辺での



第3図 善応寺地形図 (1/5,000)

採集遺物のようである。なお『東京国立博物館図版目録 仏具篇』(平成2年)には写真とともに「鉄鑄製 平安時代 山梨県中巨摩郡白根町大嵐善応寺出土 現存長9.8 古谷楚全氏 外二名寄贈」とある。そのほか善応寺経塚出土品については『MUSEAM』154に記載があるようであるが、未見。

1989年発行の『将棋頭遺跡・須沢城址』には、経塚地点の調査を行った報告がある。それによれば「出土地点は通称「丸山」とよばれていたということで、古くから馬の背状の地形であったということである。経筒が発見されて数年のうちに出土地点より下は開墾され、段々畠となっている。(略)調査地区内は善応寺東側と西側より山頂へ向かって延びる山道がちょうど合流する地点であり、南東に向かって傾斜する三角形状を呈している。(略)腐植土層を取り除くと10~20cm程ですぐに地山となる。そのため調査地区内を全面的に掘り下げ調査を行った。しかしながら、今回の調査において出土遺物はなんらみられなかった。」とあり、調査地点に印がある。

以上の手がかりをもとに善応寺裏山を踏査したところ、大正2年に作られた林道は寺の背後から北西方向に存在し、1989年調査地点は図面A地点と考えられる。また町誌掲載写真とも似た風景を示している。ただ、現状では傾斜面のみで、塚状の痕跡は皆無であった。

善応寺周辺の遺構

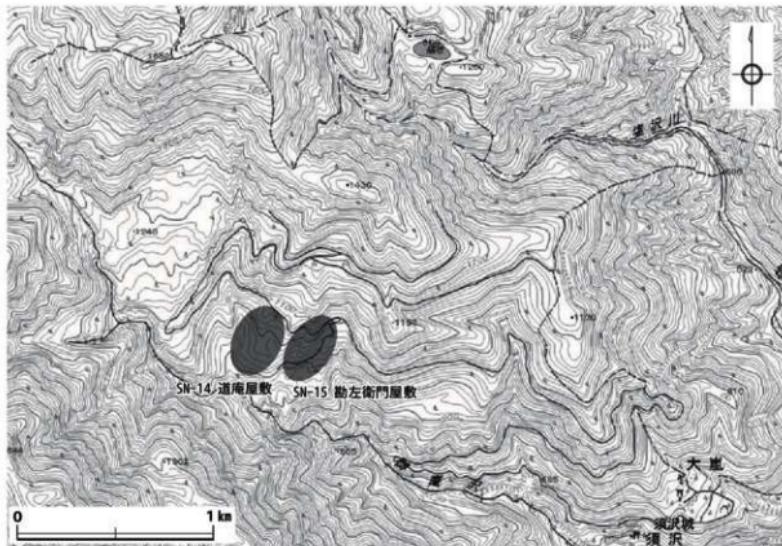
善応寺付近は柄沢(洲沢)城跡とされ、南北朝期、北朝方の高師冬が正平6年(観応2年、1351)たてこもったが、諫訪祝部および上杉能憲らの兵に攻められ落城し、自刃したと伝えられる。山腹には南東方向に広がる平地があり、最も高いところに城守山善応寺が所在し、観音堂、鐘楼がある。城跡の土塁かといわれる塚状の遺構が南東の台地線にあり、石造物が多数存在するが、城との関連性は不明である。

善応寺は円覚寺末で、弘安年中(1278~1288)、筆見浦政綱を開基とし、大休佛源禪師を迎えて開山としたと伝えられる。現在残る観音堂は享保6年(1721)の建立で、千手観音像は平安時代の一本作りとされ、大笹池の西都沢で発見されたという。なお鐘楼は寛文8年(1668)建立で、鐘には元禄15年(1702)の銘がある。観音堂西側の宝篋印塔は鎌倉~室町期の所産と思われる優品で、県指定文化財である。そのほか観音堂正面の六地蔵輪には天和3年(1683)の記年銘がある。

善応寺観音堂は横長の平坦面にあり、その背後には石垣を伴う7~8面のひな壇状の平坦面(テラス)が連続する。『白根町誌』『将棋頭遺跡・須沢城址』を参照にすれば、大正2年に山道が開さくされて数年後に造成されたと考えられる畠である。また観音堂裏手から北西にのびる山道の左手にもテラス群が数面存在し、井戸と思われる石組み(B)、水場かと思われる地点(C)がある。観音堂の西側テラスには配石による溝、石段、石垣が認められ、明らかに寺院の一部と考えられる。その付近には桶を埋め込んだ井戸、あるいは肥溜め状の跡が2箇所ある。さらに西側、台地縁部にある神社にかけていくつかのテラスが存在し、集石(D)、墓石(E)、穀臼(F)が見られた。(櫛原功一)

山岳調査

山岳調査は、平成17年度、善応寺周辺の山地に焦点をあて、調査員4名および文化財課担当職員、さらに白根山中の事情に詳しい有野地区在住の名取栄一氏の協力を得て踏査を行った。調査の結果、中世以前の遺物は採取されなかつたが、白根地区山中各所に扇状地上の村々が建てた山ノ神や馬頭観音など多数の近世石造物が分布することが判明した。また、善応寺遺跡の北西に位置し中世の屋敷跡との伝承が残る勘左衛門屋敷と道庵屋敷の踏査を行い、テラス状の地形や池状遺構を確認した。二つの屋敷については以下で概要を報告する。なお、調査では携帯用GPSを使用し、石造物および屋敷跡の位置を測定した。



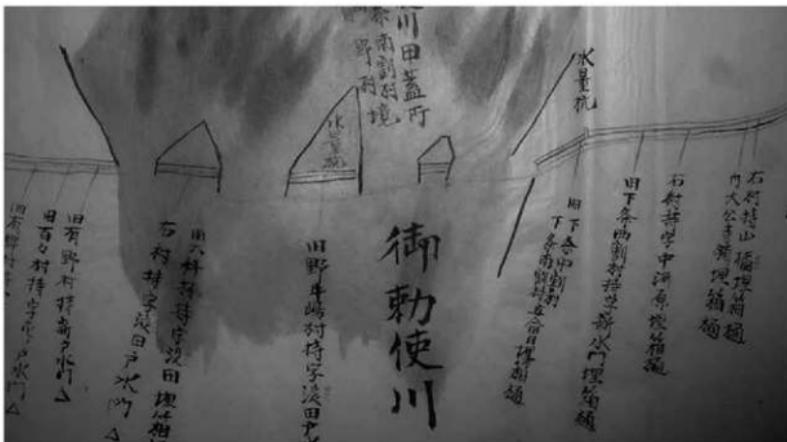
第4図 道庵屋敷・勘左衛門屋敷および須沢城位置図（1/25,000）

道庵屋敷・勘左衛門屋敷

觀応元年（1350）、上杉能憲と下諏訪の祝部の連合軍から攻められた高師冬は須沢城にたてこもるが、最後には落城する。『白根町誌』によれば、二つの屋敷地は、この須沢城から落ち延びた人々が移り住んだ場所と言われている。勘左衛門屋敷ではテラス状の地形および石垣、石組み遺構を発見した。テラスは平坦面を削りだし、斜面上方部には石積みが配され、5段を数える。5段テラスの西側のテラスには石組み遺構も複数発見された。『白根町誌』には「石垣や石の配置等より家のあったことが想像され、河川の氾濫をさけて鎌倉時代より室町時代の墓が隨所にみられる」とあるが、これが、勘左衛門屋敷で発見された石組みや石積みを指しているのか不明である。道庵屋敷でも、平坦面とともに小谷上方の湧水地から流れ出た水が溜まるような施設を発見した。二つの屋敷跡については、中世以前の遺物が採取されなかつたため遺跡とはしなかつたが、遺構の時代、性格を把握するためにも、今後の継続した調査が必要である。

堤防遺跡

堤防遺跡については、平成7～9年まで3カ年で実施された山梨県教育委員会による調査報告書のなかで、「現在の河川区域外にあり、堤防としての構造が現地で確認できるものを『堤防遺跡』と定義する」とされ、「道や土地区画の形状が堤防の存在を推定せるもの、現地踏査の折りに伝承などを聞き取りしたものなどがある。これらを『堤防遺跡推定地』とする。」と定義されている。南アルプス市にとって堤防址は市の歴史を語る上で欠くことのできないものであり、今回の調査・報告では、分布調査結果とともに山梨県堤防・河岸遺跡分布調査における『堤防遺跡』と『堤防遺跡推定地』を含めて遺跡とした。堤防址は御使川、前御使川および釜無川沿いに分布している。



第5図 徳島城の圖 明治23年4月(写 大正期) 若095.1-16-1

調査結果で注目される堤防を2、3挙げておきたい。まず挙げられるのは、石積出し4番堤の東側で発見された堤防である。石積出し1~4番堤とほぼ同じ方角に主軸をもち、4番堤からの距離は1~2番堤、2~3番堤、3~4番堤との間隔とほぼ同じ距離である。以上のことからこの堤防はおそらく1~4番堤と同様に有野の田畠や集落を守る役割であったと考えられる。さらにこの堤防の東側には聞き取り調査によって、地元で「ワタクシダシ」と呼ばれる堤防が存在したことも明らかとなった。この堤防は形状と位置から『白根町誌』所載の「御勅使川有野村分内御川除け絵図」(年不詳)に見られる「宇伊勢宮堤」であると考えられる。

上記の前御勅使川堤防の他、徳島堰から下流へ水を引くための取水口を守る堤防がある。この堤防については、平成14年7月10日付けの山梨日日新聞に「徳島堰守った堤防発見」の見出しで記事が掲載され、また『山梨県堤防・河岸遺跡分布調査報告書』では3ヶ所が「堤防推定地」とされている。御勅使川を埋樋で横断している徳島堰から旧六科村および野牛島村に水を引くためには、御勅使川の河川敷内で一度開渠となる取水口を設ける必要があった。河川敷内のため洪水から取水口を守る堤防も築かれたのである。堤防の形状は将棋の駒の形いわゆる将棋頭とほぼ同じ形状を呈している。明治時代の絵図には、野牛島村1箇所と六科村2箇所、計3箇所、徳島堰の取水口を守っていた堤防が詳細に描かれているが、現在は六科へ通水する後田堰の取水口を守る一番南の堤防1基が現存している。

堰堤調查

御勅使川上流部から御勅使南公園までの御勅使川及びその支流と大和川を対象範囲として堰堤を調査し、御勅使川合計 111 基、大和川 17 基、合計 128 基の堰堤の形態、技術的特徴、時代、現状を記録した。主なものに、大正時代に竣工された芦安堰堤が挙げられる。芦安堰堤は日本で初めてコンクリートを本格的に採用した砂防堰堤で、国登録有形文化財となっている。大正 5 年に着工、大正 7 年に重力式の堰堤が竣工したが、すぐ土砂で埋没したため、重力式の堰堤の上にアーチ式堰堤をのせる嵩上げ工事が実施され、大正 15 年に完成した。芦安堰堤に加え、大正 9 年竣工の源堰堤、大正 11 年竣工の藤屋堰堤は「選奨土木遺産」に認定されている。この他「富士川流域御勅使川筋砂防工事報告」によると、

堰堤 78 基(完全 31、小破 14、大破 33)、護岸 35 箇所(完全 15、小破 11、大破 9)を確認しているが、現在はほとんど姿を見ることができない。

南アルプス市にとって堤防遺跡と同様に堰堤も市の歴史を繙く上で貴重な文化財であり、特に明治、大正時代に造られた堰堤は、土砂による埋没や流失しているものが多く、早急な現状把握が必要であった。今回の調査によって堰堤の基礎資料が整えられた点は、今後の文化財保護行政を進める上での意義は大きい。

ロタコ

第 2 次世界大戦末期に構築されたロタコ(御勅使河原飛行場跡)の工事には、釜無川(富士川)請願地域一円から毎日 3000 人あまりの住民が動員されたといわれており、まさに地域住民を総動員しての大土木工事であったことが知られている。平成 17 年度は、地域での聞き取り調査等にあわせ、試掘調査を実施し、ロタコを構成する諸施設のうち、滑走路と掩体壕について調査を行った。その結果、当時の遺構が地下に良好に遺存していることが確認された。

ロタコは、市町村合併以前の町村誌にも記載がみられ、地域において特に重要な、地域の歴史にとって欠くことのできない遺跡ということができる。

2. 遺跡の立地と分布

本節では発見された遺跡とともに既知の遺跡を併せて白根地区の遺跡分布状況を立地環境の観点から概観する。今回の調査では「山方」および「田方」地域では堤防およびロタコを除いて遺跡は発見されなかった。遺跡の分布する地域は、①「根方」地域、②「原方」御勅使川南流路左岸地域、③「原方」御勅使川南流路右岸地域の 3 地域に大きく分けることができる。以下地域ごとに遺跡の特徴を報告する。

①「根方」地域

今回遺跡が発見された地点は、巨摩山地東麓の高位段丘上いわゆる「根方」に立地する大嵐地区と飯平地区である。これらの地区は調査以前から遺跡の存在が知られていた地域で、縄文時代の集落跡である飯平遺跡や、中世の山岳寺院善応寺遺跡、中世の城跡須沢城跡が発見されている。飯平遺跡では縄文土器(加曾利 E)や磨製・打製石斧が採取された縄文時代の遺跡として白根町誌に掲載されている。狩猟採集が生業であった縄文時代に、人々がいち早くこの環境を利用した状況が見てとれる。同じ環境の築山地区では遺物は採取されなかつたが、『白根町誌』には縄文時代の遺跡として記述されており、未確認の遺跡が存在する可能性が高いと言える。

古代から中世にかけて県内でも山岳信仰を背景とした寺院が建立されるが、善応寺もそのひとつと考えられる。善応寺の北西には大笹池が位置し、近代まで雨乞いの儀礼が行われてきた場所でもある。本尊の千手観音像は平安時代の一本作りでこの大笹池の西都沢で発見されたと伝えられていることから、善応寺は雨乞いとの関係が深い寺院と言える。一方「根方」でも高位段丘下の扇状地扇頂部には泥流堤が形成され厚く砂礫が堆積しているため、地表での遺物採取ができず遺跡を発見できなかつた。

②「原方」御勅使川南流路左岸地域

御勅使川南流路と前御勅使川流路との間に位置し、御勅使川扇状地扇尖部から扇端部までの原方にあたる。この地域は、遺物の散布状況の密度が高く、御勅使川扇状地扇尖部から扇端部まで広範囲に分布するため百々から上八田に至る広い地域を一括して百々・上八田遺跡とした。百々・上八田遺跡の西側は百々遺跡の調査結果から、平安時代、集落が大規模に展開し、中世まで存続することがわかっている。一方御勅使川扇状地扇端部にあたる百々・上八田遺跡東部、特に釜無川が御勅使川扇状地を削り形成さ

れた浸食崖の崖上には試掘調査によって縄文時代後期堀之内期の配石遺構や敷石住居、古墳時代後期および奈良・平安時代の竪穴住居が発見され、さらに中世武田氏の重臣であった金丸氏の館跡も立地している。このように縄文時代後期から断続的ではあるが長期間にわたり扇状地先端部に人々が居住したのは、浸食崖下から湧出する豊かな御勤使川伏流水の存在が大きな要因であろう。

③「原方」御勤使川南流路右岸地域

御勤使川南流路（以下南流路）の右岸、御勤使川扇状地扇尖から扇端部いわゆる原方にあたる地域である。この地域の中でも扇尖部は南流路左岸と比べ、明らかに地表で採取できる遺物が少ない。調査以前この地域で遺跡となっていたのは、金山塚古墳と横堀遺跡の2遺跡であり、今回の調査でも神ノ木遺跡と宮西遺跡で中世の遺物が少量発見できただけである。平成15～17年度に行った試掘調査の結果では、この地域には砂礫層が厚く堆積し、ほとんど遺跡を発見できていない。中部横断自動車道建設に伴い平成11年に発掘調査された横堀遺跡では、主に縄文時代晚期から弥生時代前期の遺物が2000点以上、地表下約4m堆積した砂礫層下から発見された。以上の点から南流路右岸地域は弥生時代から中世にかけて、洪水の影響を受けやすい不安定な地域であったと推測される。

一方、御勤使川扇状地扇端部には調査前、清水坂遺跡、下今諏訪遺跡とおつき穴古墳が知られていた。調査の結果、下今諏訪遺跡の範囲が広がり、浸食崖の上に西原遺跡が発見された。下今諏訪遺跡では、縄文時代中期および古代～近世の遺物が採取されている。このように縄文時代および古代から中世の遺跡が見られる点は、南流路左岸の上八田・徳永地区と同様であり、同じ原方でも扇尖部より早い時期に開発されている状況がわかる。

第5章 総 括

今回の分布調査の結果、白根地区において新たな遺跡が3箇所発見され、また既知の3遺跡の範囲が広がることとなった。この他、堤防遺跡や戦争遺跡であるロタコ（御勅使河原飛行場跡）などの南アルプス市にとって特徴的な遺構を確認し遺跡とした点は、貴重な調査結果と言える。

一方、調査対象地区となった芦安地区では遺跡が発見されなかった。これは芦安地区に古くから人々が生活していなかったのではなく、地区の約96%が山林であるため限られた居住域に現在も人々が住んでおり、遺物の採取が困難であった点にあると考えられる。周辺には天福元年（1233）の銘をもつ御正体が伝えられている高尾山穂見神社や平安時代の製作とされる千手觀音を本尊とする大嵐地区的善応寺、近年山腹から古代の住居跡が発見された鷲崎市高尾山の穂見神社など、古代・中世から続く山岳信仰の山々が存在する。今回調査員の安全を考慮し分布調査を行っていない芦安地区的山岳部については、今後も継続した調査が必要であろう。

以上3年にわたる芦安・白根地区的分布調査によって、旧6町村全ての地区において分布調査が実施され、遺跡地図が整備されることになる。しかし、地区によっては分布調査の年代が古く、また表面採集を主とした踏査では、扇状地や氾濫原上の調査に限界がある。通年行われる立会調査や試掘調査でデータを活用し、常に最新の遺跡地図を整備する必要がある。GIS等のシステムを利用し、分布、立会、試掘調査等の情報を一元化し、情報を効率的に活用して、各種土木工事に対し正確かつ迅速な埋蔵文化財保護の対応をとることが今後の課題である。

南アルプス市遺跡地名表

- 市では遺跡番号を旧6町村ごとに記号と番号で整理している。八田地区「HT」、白根地区「SN」、若草地区「WK」、櫛形地区「KG」、甲西地区「KS」とし、それぞれの地区ごとに枝番号を付与している。
- 堤防址については、現御勅使川と前御勅使川そして釜無川に伴うものの3つに区分し、それぞれに一括して遺跡番号および遺跡名を与えた。なお、旧町村境をまたぐ場合は、旧町村ごとの遺跡番号となる。
- ロタコ（御勅使河原飛行場跡）については、滑走路、掩体壕、地下壕を遺跡とした。

第1表 南アルプス市遺跡地名表

地区	記号	番号	名稱	アリガタ	種別	所在地	日	爆	爆	爆	爆	爆	爆	古	古	古	古	古	古	古	平	平	平	平	世	代	標識
八田	HT	45	高麗使・伊良湖見	かいたいひわていとうしきん	地熱	六所、野牛島																				山崎11号井地質調査 山崎11号井地質調査	
八田	HT	46	高麗使・伊良湖見	まゐがみいわひわていとうしきん	地熱	六所、野牛島、上高砂 爆風、下高砂																				山崎11号井地質調査 山崎11号井地質調査	
八田	HT	47	高麗使・伊良湖見	がまながひわていとうしきん	地熱	上高砂・下高砂																				山崎11号井地質調査 山崎11号井地質調査	
若草	VAK	1	伊豆島地熱	しのんじしまじねつ	露水地	十日市海水浴場																				山崎15号井地質調査 山崎15号井地質調査	
若草	VAK	2	高麗使・高麗見	たかめいき	露水地	下今子海水浴場																				山崎16号井地質調査 山崎16号井地質調査	
若草	VAK	3	「高麗使・高麗見」	はちめんじだいめい	露水地	綾子海水浴場																				山崎16号井地質調査 山崎16号井地質調査	
若草	VAK	4	「高麗使・高麗見」	かいたいひわていとうしきん	露水地	十日市海水浴場																				山崎16号井地質調査 山崎16号井地質調査	
若草	VAK	5	「高麗使・第2地熱」	はちめんじだいめい	露水地	綾子海水浴場																				山崎16号井地質調査 山崎16号井地質調査	
若草	VAK	6	「高麗使・第3地熱」	ひらめき	露水地	綾子海水浴場																				山崎16号井地質調査 山崎16号井地質調査	
若草	VAK	7	「高麗使・第4地熱」	ひらめき	露水地	寺家今井筋																				山崎16号井地質調査 山崎16号井地質調査	
若草	VAK	8	「高麗使・第5地熱」	ひらめき	露水地	寺家今井筋																				山崎16号井地質調査 山崎16号井地質調査	
若草	VAK	9	「高麗使・第6地熱」	ひらめき	露水地	寺家今井筋																				山崎16号井地質調査 山崎16号井地質調査	
若草	VAK	10	「高麗使・第7地熱」	ひらめき	露水地	寺家今井筋																				山崎16号井地質調査 山崎16号井地質調査	
若草	VAK	11	「高麗使・第8地熱」	ひらめき	露水地	綾子海水浴場																				山崎16号井地質調査 山崎16号井地質調査	
若草	VAK	12	「高麗使・第9地熱」	ひらめき	露水地	寺家今井筋																				山崎16号井地質調査 山崎16号井地質調査	
若草	VAK	13	「高麗使・第10地熱」	ひらめき	露水地	寺家今井筋																				山崎16号井地質調査 山崎16号井地質調査	
若草	VAK	14	「高麗使・第11地熱」	ひらめき	露水地	綾子海水浴場																				山崎16号井地質調査 山崎16号井地質調査	
若草	VAK	15	「高麗使・第12地熱」	ひらめき	露水地	綾子海水浴場																				山崎16号井地質調査 山崎16号井地質調査	
若草	VAK	16	「高麗使・第13地熱」	ひらめき	露水地	綾子海水浴場																				山崎16号井地質調査 山崎16号井地質調査	
若草	VAK	17	「高麗使・第14地熱」	ひらめき	露水地	寺家今井筋																				山崎16号井地質調査 山崎16号井地質調査	
若草	VAK	18	「高麗使・第15地熱」	ひらめき	露水地	寺家今井筋																				山崎16号井地質調査 山崎16号井地質調査	
若草	VAK	19	「高麗使・第16地熱」	ひらめき	露水地	寺家今井筋																				山崎16号井地質調査 山崎16号井地質調査	
若草	VAK	20	「高麗使・第17地熱」	ひらめき	露水地	寺家今井筋																				山崎16号井地質調査 山崎16号井地質調査	
若草	VAK	21	「高麗使・第18地熱」	ひらめき	露水地	寺家今井筋																				山崎16号井地質調査 山崎16号井地質調査	
若草	VAK	22	「高麗使・第19地熱」	ひらめき	露水地	寺家今井筋																				山崎16号井地質調査 山崎16号井地質調査	
若草	VAK	23	「高麗使・第20地熱」	ひらめき	露水地	寺家今井筋																				山崎16号井地質調査 山崎16号井地質調査	
若草	VAK	24	「高麗使・第21地熱」	ひらめき	露水地	寺家今井筋																				山崎16号井地質調査 山崎16号井地質調査	
若草	VAK	25	「高麗使・第22地熱」	ひらめき	露水地	寺家今井筋																				山崎16号井地質調査 山崎16号井地質調査	
若草	VAK	26	「高麗使・第23地熱」	ひらめき	露水地	寺家今井筋																				山崎16号井地質調査 山崎16号井地質調査	
若草	VAK	27	「高麗使・第24地熱」	ひらめき	露水地	寺家今井筋																				山崎16号井地質調査 山崎16号井地質調査	
若草	VAK	28	「高麗使・第25地熱」	ひらめき	露水地	寺家今井筋																				山崎16号井地質調査 山崎16号井地質調査	
若草	VAK	29	「高麗使・第26地熱」	ひらめき	露水地	寺家今井筋																				山崎16号井地質調査 山崎16号井地質調査	
若草	VAK	30	「高麗使・第27地熱」	ひらめき	露水地	寺家今井筋																				山崎16号井地質調査 山崎16号井地質調査	
若草	VAK	31	「高麗使・第28地熱」	ひらめき	露水地	寺家今井筋																				山崎16号井地質調査 山崎16号井地質調査	
若草	VAK	32	「高麗使・第29地熱」	ひらめき	露水地	寺家今井筋																				山崎16号井地質調査 山崎16号井地質調査	

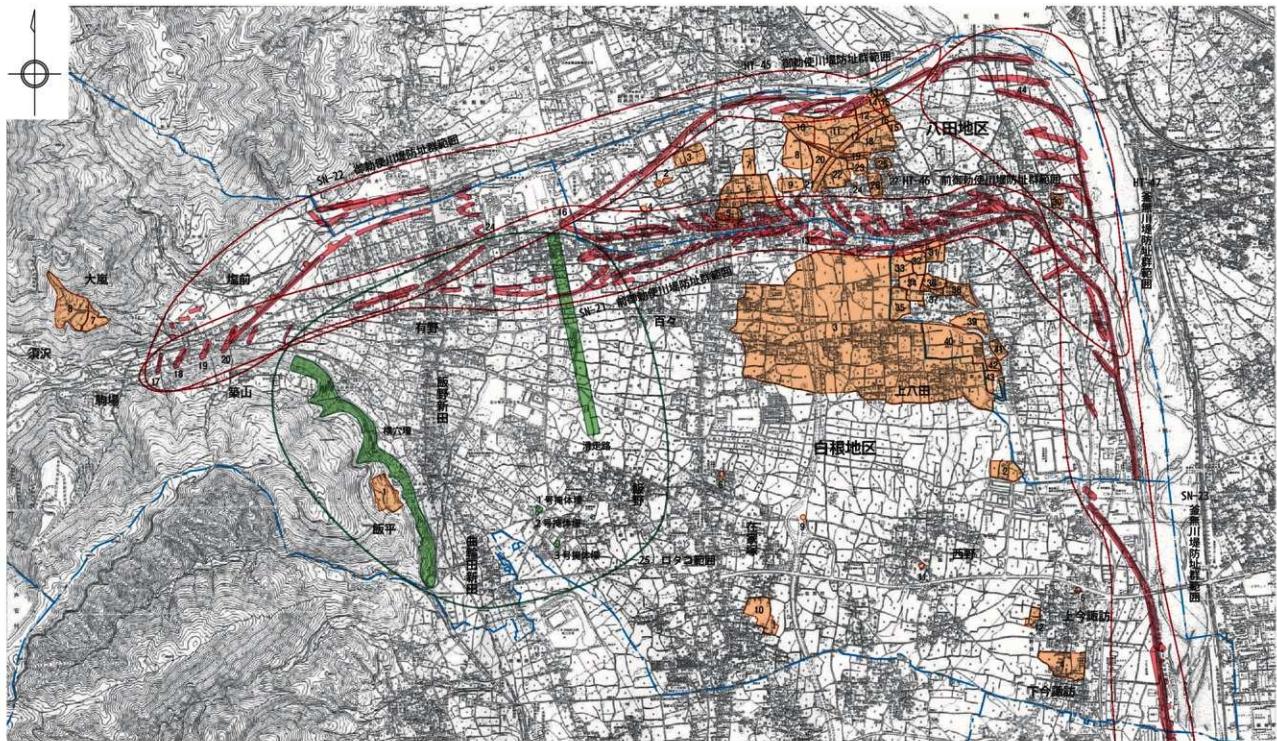
地区	記号	番号	名称	ふりがな		場所	所在地
				田	畠		
若草	WV	33	多摩川第4支流	てらべらつまたよんせき	田地地	多摩子町	多摩子町
若草	WV	34	多摩川第17支流	てらべらつまよじゅうしちよんせき	田地地	多摩子町	多摩子町
若草	WV	35	多摩川第11支流	てらべらつまよじゅういちよんせき	田地地	多摩子町	多摩子町
若草	WV	36	多摩川第11支流	てらべらつまよじゅういちよんせき	田地地	多摩子町	多摩子町
若草	WV	37	多摩川第8支流	てらべらつまよじゅうはちよんせき	田地地	多摩子町	多摩子町
若草	WV	38	多摩川第3支流	ながれしよさんせき	田地地	横子字西	横子町
若草	WV	39	多摩川第3支流	そりひがたひいせき	田地地	横子字子田・深入	横子町
若草	WV	40	多摩川第3支流	みさかひいせき	田地地	横子字子田・深入	横子町
若草	WV	41	多摩川支流	みなかまえすじいせき	田地地	牛子原	牛子原
若草	WV	42	多摩川第1支流	すもぱにさんせき	田地地	牛子原	牛子原
若草	WV	43	多摩川第5支流	すもぱにさんせき	田地地	牛子原	牛子原
若草	WV	44	多摩川第10支流	てらべらつまよじゅうしちよんせき	田地地	牛子原	牛子原
若草	WV	45	多摩川支流	もしょくひいせき	田地地	日市字角力場	日市町
若草	WV	46	多摩川支流	すもぱにさんせき	田地地	日市字角力場	日市町
若草	WV	47	多摩川支流	すもぱにさんせき	田地地	日市字角力場	日市町
若草	WV	48	多摩川支流	すもぱにさんせき	田地地	日市字角力場	日市町
若草	WV	49	多摩川第7支流	はやしまよじゅうしちよんせき	田地地	日市字林村・角力場	日市町
若草	WV	50	多摩川第2支流	はやしまよじゅうにいせき	田地地	日市字林村	日市町
若草	WV	51	多摩川第3支流	はやしまよじゅうさんせき	田地地	日市字林村	日市町
若草	WV	52	多摩川上支流	あらひあらひいせき	田地地	日市字新庄上	日市町
若草	WV	53	多摩川下支流	あらひあらひいせき	田地地	日市字新庄下	日市町
若草	WV	54	多摩川支流	みやえいせき	田地地	牛子原	牛子原
若草	WV	55	多摩川支流	いせき	田地地	立ヶ瀬字下前	立ヶ瀬町
若草	WV	56	多摩川第2支流	みなかまえすじいせき	田地地	立ヶ瀬字前	立ヶ瀬町
若草	WV	57	多摩川第3支流	みなかまえすじいせき	田地地	立ヶ瀬字前	立ヶ瀬町
若草	WV	58	多摩川第4支流	みなかまえすじいせき	田地地	立ヶ瀬字前	立ヶ瀬町
若草	WV	59	多摩川第1支流	ほつようすじいせき	田地地	立ヶ瀬字下丁	立ヶ瀬町
若草	WV	60	多摩川第2支流	ふるみよじゅうにいせき	田地地	立ヶ瀬字下原・削田	立ヶ瀬町
若草	WV	61	多摩川支流	ふるみよじゅうにいせき	田地地	立ヶ瀬字下原・削田	立ヶ瀬町
若草	WV	62	多摩川支流	しらうぢぎはいせき	田地地	立ヶ瀬字下原・削田	立ヶ瀬町
若草	WV	63	多摩川支流	しらうぢぎはいせき	田地地	立ヶ瀬字下原・削田	立ヶ瀬町
若草	WV	64	多摩川支流	おおづきぎはいせき	田地地	立ヶ瀬字下原・削田	立ヶ瀬町
若草	WV	65	多摩川支流	おおづきぎはいせき	田地地	立ヶ瀬字下原・削田	立ヶ瀬町
若草	WV	66	多摩川第2支流	しゃくそううにいせき	田地地	立ヶ瀬字中	立ヶ瀬町
若草	WV	67	多摩川第3支流	しゃくそううにいせき	田地地	立ヶ瀬字中	立ヶ瀬町
若草	WV	68	多摩川第4支流	しゃくそううにいせき	田地地	立ヶ瀬字中	立ヶ瀬町

地区	記号	名稱	分布		種別	所在地
			現地	過去		
高麗郡	KG-82	弓背C 過去	なし	なし	分布	無鰓田子山西
高麗郡	KG-83	弓背D 過去	なし	なし	分布	無鰓田子山西
高麗郡	KG-84	弓背E 過去	なし	なし	分布	無鰓田子山西
高麗郡	KG-85	弓背F 過去	なし	なし	分布	無鰓田子山西
高麗郡	KG-86	人掌A 過去	なし	なし	分布	無鰓田子山西
高麗郡	KG-87	人掌B 過去	なし	なし	分布	無鰓田子山西
高麗郡	KG-88	人掌C 過去	なし	なし	分布	無鰓田子山西
高麗郡	KG-89	人掌D 過去	なし	なし	分布	無鰓田子山西
高麗郡	KG-90	手弓A 過去	なし	なし	分布	上宮地子手弓河原
高麗郡	KG-91	手弓B 過去	なし	なし	分布	上宮地子手弓河原
高麗郡	KG-92	手弓C 過去	なし	なし	分布	上宮地子手弓河原
高麗郡	KG-93	手弓D 過去	なし	なし	分布	上宮地子手弓河原
高麗郡	KG-94	手弓E 過去	なし	なし	分布	上宮地子手弓河原
高麗郡	KG-95	手弓F 過去	なし	なし	分布	上宮地子手弓河原
高麗郡	KG-96	手弓G 過去	なし	なし	分布	上宮地子手弓河原
高麗郡	KG-97	手弓H 過去	なし	なし	分布	上宮地子手弓河原
高麗郡	KG-98	圓錐足 過去	なし	なし	分布	上宮地子手弓河原
高麗郡	KG-99	元済 A 過去	なし	なし	分布	上宮地子手弓河原
高麗郡	KG-100	元済 B 過去	なし	なし	分布	上宮地子手弓河原
高麗郡	KG-101	元済 C 過去	なし	なし	分布	上宮地子手弓河原
高麗郡	KG-102	明 A 過去	なし	なし	分布	上宮地子手弓河原
高麗郡	KG-103	新済 C 過去	なし	なし	分布	上宮地子手弓河原
高麗郡	KG-104	新済 D 過去	なし	なし	分布	上宮地子手弓河原
高麗郡	KG-105	新済 E 過去	なし	なし	分布	上宮地子手弓河原
高麗郡	KG-106	新済 F 過去	なし	なし	分布	上宮地子手弓河原
高麗郡	KG-107	新済 G 過去	なし	なし	分布	上宮地子手弓河原
高麗郡	KG-108	新済 D 過去	なし	なし	分布	上宮地子手弓河原
高麗郡	KG-109	新済 A 過去	なし	なし	分布	上宮地子手弓河原
高麗郡	KG-110	新済 B 過去	なし	なし	分布	上宮地子手弓河原
高麗郡	KG-111	新済 C 過去	なし	なし	分布	上宮地子手弓河原
高麗郡	KG-112	無名類	なし	なし	分布	上宮地子手弓河原
高麗郡	KG-113	圓弓A 過去	なし	なし	分布	上宮地子手弓河原
高麗郡	KG-114	圓弓B 過去	なし	なし	分布	上宮地子手弓河原
高麗郡	KG-115	無名類	なし	なし	分布	上宮地子手弓河原
高麗郡	KG-116	圓弓 C 過去	なし	なし	分布	上宮地子手弓河原
高麗郡	KG-117	圓弓 D 過去	なし	なし	分布	上宮地子手弓河原

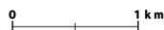
地区	記号	番号	名称	ぶりかな	場所	在所地	種別	田	圃	園	壠	壇	壩	勞	中	池	池	古	香	平	等	中	近	遠	代	相場
(都)	KG	154	160平 F 通路	びきたりらぐえいせき	新ホ地	小笠原野字野平	新ホ地																		平均2.5分地価	
(都)	KG	155	160東南側通路	せんくいんごいせき	新ホ地	山手字山原	新ホ地																		平均2.5分地價	
(都)	KG	156	160北通路	ついせき	新ホ地	山手字山原	新ホ地																		平均2.5分地價	
(都)	KG	157	160下通路	さかいたいせき	新ホ地	山手字坂下	新ホ地																		平均2.5分地價	
(都)	KG	158	160西側通路	ほうじいせき	新ホ地	山手字坂田	新ホ地																		平均2.5分地價	
(都)	KG	159	コトモ一等地	こどもいせき	古墳	牛糞字牛田	牛糞地																		平均2.5分地價	
(都)	KG	160	160北	さざりて	新ホ地	牛糞字深尻	牛糞地																		平均2.5分地價	
(都)	KG	161	160西側行道通路	ひらがなむらこんこうえんじんせき	新ホ地	牛糞字坂下	牛糞地																		平均2.5分地價	
(都)	KG	162	160東通路	やまじいせき	新ホ地	牛糞字山本	牛糞地																		平均2.5分地價	
(都)	KG	163	160西側通路	おとづりいせき	新ホ地	牛糞字坂手作	牛糞地																		平均2.5分地價	
(都)	KG	164	160南通路	ながれいせき	新ホ地	牛糞字中畠	牛糞地																		平均2.5分地價	
(都)	KG	165	160東田 A 通路	くぼたえーせき	新ホ地	平字字久保田	平字地																		平均2.5分地價	
(都)	KG	166	160東田 B 通路	くぼたえーせき	新ホ地	平字字久保田	平字地																		平均2.5分地價	
(都)	KG	167	160西田 A 通路	ひらがなむらじーせき	新ホ地	平字字東原	平字地																		平均2.5分地價	
(都)	KG	168	160西口通路	おさかじーせき	新ホ地	平字字町口	平字地																		平均2.5分地價	
(都)	KG	169	160田 A 通路	おさかえーせき	新ホ地	平字字長田	平字地																		平均2.5分地價	
(都)	KG	170	160田 A 通路	あらはじーせき	新ホ地	平字字新田	平字地																		平均2.5分地價	
(都)	KG	171	160田 B 通路	ひらはじーせき	新ホ地	平字字東原	平字地																		平均2.5分地價	
(都)	KG	172	160田 B 通路	おさかじーせき	新ホ地	平字字長田	平字地																		平均2.5分地價	
(都)	KG	173	160西古墳	むじめまがこさん	古墳	平字字六日山	平字地																		平均2.5分地價	
(都)	KG	174	160丘通路	むじめまがじーせき	新ホ地	平字字六日山	新ホ地																		平均2.5分地價	
(都)	KG	175	160東田 B 通路	あらはじーせき	新ホ地	平字字新田	新ホ地																		平均2.5分地價	
(都)	KG	176	160西田 A 通路	いのわじーせき	新ホ地	上ノ2池字新田	新ホ地																		平均2.5分地價	
(都)	KG	177	160水 A 通路	しのみえーせき	新ホ地	上ノ2池字水	新ホ地																		平均2.5分地價	
(都)	KG	178	160水 B 通路	しみえーせき	新ホ地	上ノ2池字水	新ホ地																		平均2.5分地價	
(都)	KG	179	160水 C 通路	しみえーせき	新ホ地	上ノ2池字水	新ホ地																		平均2.5分地價	
(都)	KG	180	160西大畠 A 通路	しもじちのせき	原記	下ノ2池字水	原記																		平均2.5分地價	
(都)	KG	181	160西大畠 B 通路	しもじちのせき	新ホ地	下ノ2池字水	新ホ地																		平均2.5分地價	
(都)	KG	182	160西大畠 C 通路	しもじちのせき	新ホ地	下ノ2池字水	新ホ地																		平均2.5分地價	
(都)	KG	183	160西大畠 D 通路	しもじちのせき	新ホ地	下ノ2池字水	新ホ地																		平均2.5分地價	
(都)	KG	184	160西 A 通路	よこじちのせき	新ホ地	下ノ2池字水	新ホ地																		平均2.5分地價	
(都)	KG	185	160西 B 通路	よこじちのせき	新ホ地	下ノ2池字水	新ホ地																		平均2.5分地價	
(都)	KG	186	160西 C 通路	よこじちのせき	新ホ地	下ノ2池字水	新ホ地																		平均2.5分地價	
(都)	KG	187	160西 D 通路	よこじちのせき	新ホ地	下ノ2池字水	新ホ地																		平均2.5分地價	
(都)	KG	188	160西 E 通路	うちじのせき	新ホ地	下ノ2池字水	新ホ地																		平均2.5分地價	
(都)	KG	189	160西 F 通路	きつねかわいせき	新ホ地	下ノ2池字水	新ホ地																		平均2.5分地價	

地区	記号	番号	名称	ふりがな	所在地	種別	旧 墓 墓 墓 墓 墓 墓 墓 墓 墓 墓 墓 墓 墓	古 古 古 古 古 古 古 古 古 古 古 古	新 新 新 新 新 新 新 新 新 新 新 新	中 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中	施 施 施 施 施 施 施 施 施 施 施 施	管 管 管 管 管 管 管 管 管 管 管 管	平 平 平 平 平 平 平 平 平 平 平 平	中 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中 中	送 送 送 送 送 送 送 送 送 送 送 送	近 代 近 代 近 代 近 代 近 代 近 代 近 代	地圖	
(権) K6	Z26	田代原古墳	ものかづかの山	古墳	下久美子字山の山													平成2年分地図
(権) K6	Z27	上木久木古墳	かみくきくじいさき	古墳	中野下上木久木													平成2年分地図
(権) K6	Z28	上木久木古墳	かみくきくじいさき	古墳	中野下上木久木												平成2年分地図	
(権) K6	Z29	下木久木古墳	しもくきくじいさき	古墳	中野下下木久木												平成2年分地図	
(権) K6	Z30	下木久木古墳	しもくきくじいさき	古墳	中野下下木久木												平成2年分地図	
(権) K6	Z31	下木久木古墳	しもくきくじいさき	古墳	中野下下木久木												平成2年分地図	
(権) K6	Z32	中野久木古墳	やまとくきくじいさき	古墳	上野山道久木												平成2年分地図	
(権) K6	Z33	中野丸山古墳	なかのまるやま	古墳	中野丸山												平成2年分地図	
(権) K6	Z34	中野松古墳	なかのまつ	古墳	中野松古墳												平成2年分地図	
(権) K6	Z35	中野タツミ古墳	なかのたつみ	古墳	伊豆山・塚原												平成2年分地図	
(権) K6	Z36	中野丸山古墳	なかのまるやま	古墳	馬鹿子丸山												平成2年分地図	
(権) K6	Z37	中野城	なかのじょう	城跡	中野城												平成2年分地図	
(権) K6	Z38	中野今井・源氏跡	なかのいまい・げんじあと	古墳	奈良原ヶ瀬田山												平成2年分地図	
(権) K6	Z39	中野城	なかのじょう	城跡	中野城												平成2年分地図	
(権) K6	Z40	中野北庄古跡	なかのほくじょう	古墳	馬鹿子丸山												平成2年分地図	
(権) K6	Z41	中野大森古跡	なかのおおもり	古墳	馬鹿子大森												平成2年分地図	
(権) K6	Z42	中野山A古跡	なかのさんあ	古墳	中野山A												平成2年分地図	
(権) K6	Z43	中野B古跡	なかのさんぶ	古墳	小野原字地肥												平成2年分地図	
(権) K6	Z44	中野山B古跡	なかのさんぶ	古墳	中野山B												平成2年分地図	
(権) K6	Z45	中野(日野)古跡	なかの(ひの)こ	遺跡	中野(日野)												平成2年分地図	
(権) K6	Z46	田代原古墳	ただわら	古墳	小笠原字八日野												平成2年分地図	
(権) K6	Z47	田代原古墳	ただわら	古墳	平井字資本												平成2年分地図	
(権) K6	Z48	大和川源流右岸	やまとがわうどりうがわん	遺跡	魚沼日田大和												平成2年分地図	
(権) K6	Z49	大和川源流左岸	やまとがわうどりうがわん	遺跡	魚沼日田大和												平成2年分地図	
(権) K6	Z50	大和川源流左岸	やまとがわうどりうがわん	遺跡	魚沼日田大和												平成2年分地図	
(権) K6	Z51	大和川源流右岸	やまとがわうどりうがわん	遺跡	魚沼日田大和												平成2年分地図	
(権) K6	Z52	大和川源流左岸	やまとがわうどりうがわん	遺跡	相澤字高家・飯原												平成2年分地図	
(権) K6	Z53	大和元川源流右岸	やまともとがわうどりうがわん	遺跡	上野原字上河原・奥原												平成2年分地図	
(権) K6	Z54	大和元川源流右岸	やまともとがわうどりうがわん	遺跡	小笠原字持平												平成2年分地図	
(権) K6	Z55	大和元川源流左岸	やまともとがわうどりうがわん	遺跡	小笠原字立向												平成2年分地図	
(権) K6	Z56	大和元川源流右岸	やまともとがわうどりうがわん	遺跡	小笠原字上河原												平成2年分地図	
(権) K6	Z57	大和元川源流左岸	やまともとがわうどりうがわん	遺跡	小笠原字東村												平成2年分地図	
(権) K6	Z58	大和源田古墳	やまともとだ	古墳	山崎町日高田												平成2年分地図	

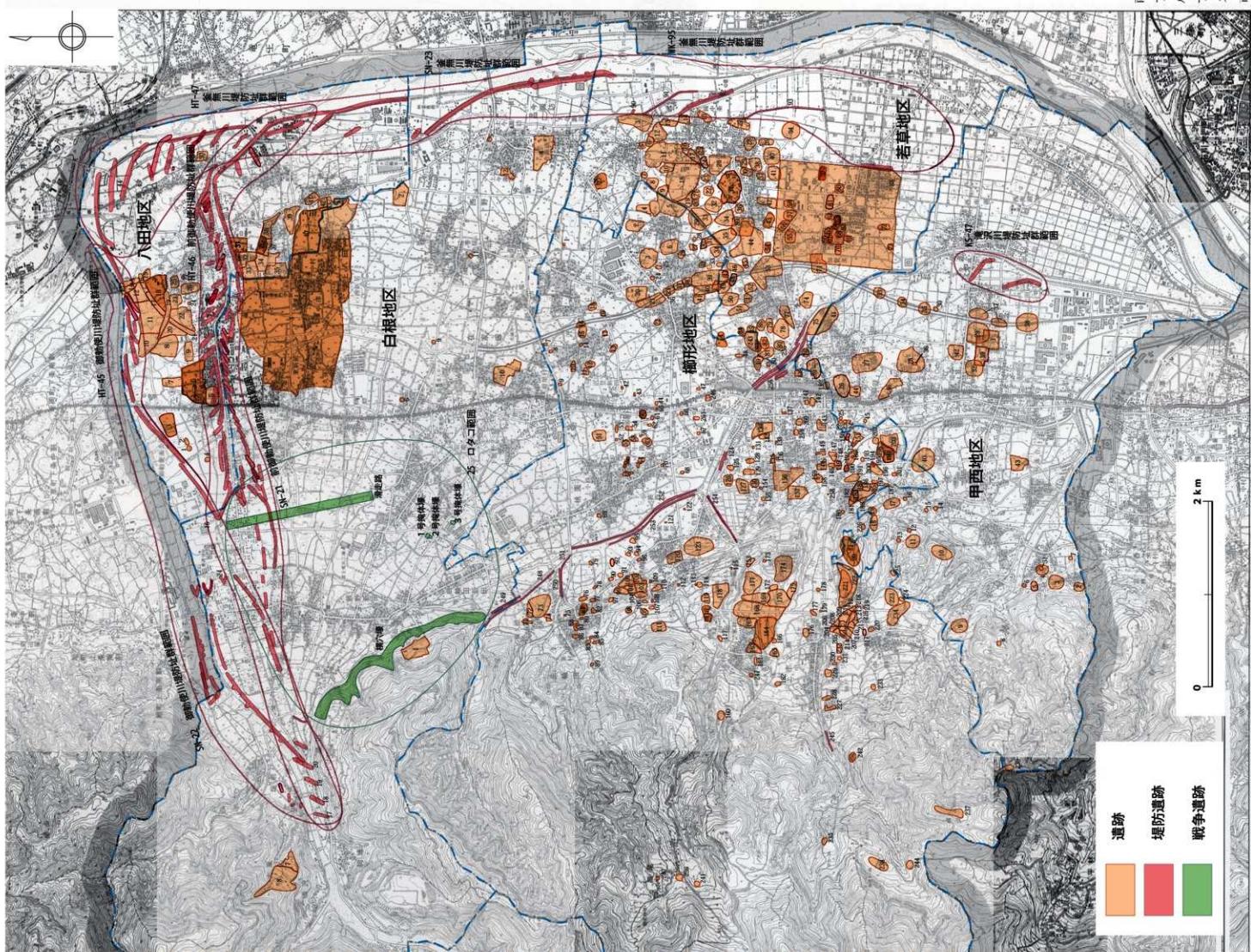
地区	記号	番号	名称	ふりがな	場所	施設	所在地	旧 墓 墓 墓 墓 墓 墓 墓 墓 平 墓 墓 墓 墓	中 墓 墓 墓 墓 墓 墓 墓	近 墓 墓 墓 墓 墓 墓 墓	遠 墓 墓 墓 墓 墓 墓 墓	代	地図	
甲西	K5	35	戸田墓地	ながわだいじ	新高地	新高地	田園宇都山田							平成11年調査
甲西	K5	36	小川墓地	ちかわいせき	新高地	新高地	私宅付内							平成11年調査
甲西	K5	37	大庭東山保育園	おおばひがひがんたんばいくえん	新高地	新高地	大学付東山保							平成11年調査
甲西	K5	38	元浜中学校跡	みやなみちゅうがっこうじ	新高地	新高地	宮守東宮沢							平成11年調査
甲西	K5	39	戸田墓地	ながわだいじ	新高地	新高地	新高地							平成11年調査
甲西	K5	40	大津社会運動	おおつしそうどう	新高地	新高地	川上山川上・中田							平成11年調査
甲西	K5	41	山岸保育園	さんがんほいくえん	新高地	新高地	工学院山岸							昭和32年1月調査
甲西	K5	42	南高墓地	みなみこうじ	新高地	新高地	吉田学習園							昭和12年調査
甲西	K5	43	中村の森墓地	なかむらのもり	新高地	新高地	落合子源林							昭和14年調査
甲西	K5	44	北高墓地	きたこうじ	新高地	新高地	下高尾子三輪							昭和14年調査
甲西	K5	45	高野前古墳	たかのまへこふん	古墳	古墳	下高野字下原							昭和14年調査
甲西	K5	46	高野古墳	たかのうじあと	新高地	新高地	私宅付北之宮							昭和14年調査
甲西	K5	47	高野川墓地跡	たかのうがわだいじあと	建物跡	戸田								山梨県助川・高野川跡調査



注…SN-14、SN-15は9P第4図参照



第6図 南アルプス市白根・八田地区遺跡地図 (1/30,000)



第7図 南アルプス市遺跡地図(1/35,000)

写 真 図 版

写真図版 1



SN-1 飯平遺跡 (H 15. 1-H)



SN-3 百々・上八田遺跡 (H 16. 11-A)



SN-3 百々・上八田遺跡 (H 16. 15-A)



SN-3 百々・上八田遺跡 (H 16. 17-A)



SN-4 下今謙訪遺跡 (H 15. 16-B)



SN-5 おつき穴古墳

写真図版2



SN-6 金山塚古墳



SN-7 須沢城跡 (H 16. 2-A)



SN-8 善応寺遺跡 (H 16. 2-A)



SN-10 神ノ木遺跡 (H 15. 12-A)



SN-11 宮西遺跡 (H 15. 11-A)



SN-12 西原遺跡 (H 15. 15-B)

写真図版3



SN-21 前御勅使川堤防址群 (H 16. 5-H)



SN-24 後田堰取水口堤防跡



SN-25 ロタコ (掩体壕)



SN-25 ロタコ (滑走路)



SN-25 ロタコ (滑走路)



SN-25 ロタコ (横穴壕)

報告書抄録

ふりがな	やまなしけんみなみあるぶすしないいせきしようさいぶんぶちょうさほうこくしょ
書名	山梨県南アルプス市内遺跡詳細分布調査報告書
シリーズ名	南アルプス市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第12集
編著者名	斎藤秀樹、柳原功一、田中大輔
編著機関	南アルプス市教育委員会
所在地・電話	〒400-0492 山梨県南アルプス市鮎沢1212 TEL055-282-7269
印刷所	鬼灯書籍株式会社
発行年月日	2006年3月31日
所在地	山梨県南アルプス市
市町村コード	19208
調査原因	国庫補助・県補助遺跡詳細分布調査事業
調査期間	2003年11月26日～2004年1月31日 2004年11月19日～2005年1月31日 2005年7月9日～2006年1月31日
調査対象	南アルプス市芦安・白根地区

南アルプス市埋蔵文化財調査報告書 第12集

市内遺跡詳細分布調査報告書

発行日 2006年3月31日

発行者 南アルプス市教育委員会

〒400-0492

山梨県南アルプス市鮎沢1212

TEL 055-282-7269

印刷 鬼灯書籍株式会社

〒381-0012

長野県長野市柳原2133-5

TEL 026-244-0235

FAX 026-244-0210

